

単元名

「食べ物を調べよう」 ～地産地消のオリジナル弁当を作ろう～

【単元の概要】

児童は、3学年時に廿日市小学校区の『町たんけん』を行い、ふるさとの歴史や史跡について学び、見守り隊とのふれあいなどを通して地域の方々への感謝の気持ちを抱き、ふるさとへの愛着や誇りをもっている。5学年となり、総合的な学習の時間にバケツ稲作りに取り組み、社会科で地産地消の考え方を調べる。また、家庭科では調理の基礎を学び、サラダやご飯などの調理を行う。これらの学習の成果を生かし、廿日市産の食材を使い、廿日市小学校区の史跡や歴史等をアピールするオリジナル弁当づくりを行う。弁当の考案・弁当づくりは、販売を目標にすることで主体的に取り組めるようにする。また、お世話になった地域の方々に招待し、発表会で披露、試食を行って、感謝の気持ちを伝える。

【連携諸機関・人物】

廿笑応援団
J A 佐伯中央 小松康伸様
廿日市市給食センター 栄養教諭
阿品台東小学校 栄養教諭
平良小学校 栄養教諭
株式会社 A & C 木本雄太様
FM はつかいち

◆単元の目標

- ・廿日市産の食材・伝統料理を調べ、オリジナル弁当を考え、作り上げる活動を通して、郷土の良さを再確認する。
- ・また、課題解決に主体的に取り組む、協力して課題の解決を行う力を育成する。
- ・キャリア教育の視点から、オリジナル弁当販売体験を通して、働くことの価値を考えていく。
- ・オリジナル弁当発表会を開き、お世話になった方々への感謝の気持ちを伝える。

◆学習活動の実際（全70時間）

学習活動	他教科等との関連
〈課題の設定〉 お米について調べよう 〈バケツ稲を育てよう〉…5月～12月 ・J A 佐伯中央の小松さんの指導のもと、バケツ稲を育てながら、収穫後の米の活用法について考えた。 〈お米について調べよう〉…6月～7月 ・米の栄養や調理法・米作りの歴史や道具の変遷、世界の米の種類や料理の違い、米という漢字の由来や米に関わることわざ、稲の成長の様子や水田の環境への影響など、様々な切り口から米について一人一人がテーマを決めて調べたことを新聞形式にまとめ、発表した。  6月 7日 バケツ稲作り …代掻き・苗植え  6月～7月 お米について …調べ学習  7月～8月 バケツ稲作り …夏休みの水やり 〈課題の設定〉…9月初旬 地産地消のオリジナル弁当を作ろう！ 〈活動の見通しをもつ〉…9月初旬 ・収穫する米の使い道を、児童が話し合って決めた。 ・地産地消のオリジナル弁当を作るための課題を出し合い、仕事分担を考えた。 ・自分たちの目標と、弁当の名前を決めた。 →ご飯、主菜1、主菜2、副菜、汁、デザート6グループに分かれる！ →パンフレット、包装紙担当を立候補で決定！ 〈廿日市産の食材を調べる〉〈料理のテーマを決定する〉…9月中旬～下旬 ・社会科の食糧生産についての学習を踏まえ、地産地消の考え方を取り入れた料理案を考えていった。 ・料理の形や材料、ネーミングに生かすため、校区の史跡・歴史等を調べた3学年時の学習内容を振り返ったり、保護者へインタビューをしたりして必要な情報を収集した。	【社会科】「わたしたちの食生活と食料生産」で学ぶ、「国民の食生活を支える米作りについての学習」を、「米作りについて実践を通して学ぶ活動」に関連付けた。 【国語科】「新聞記事を読み比べよう」で学んだ「書き手の意図を考える学習」を生かして、「自分の編集の意図が伝わる見出しの付け方や写真の活用法を考えてまとめる活動」に活用した。 【社会科】「これからの食料生産」において、「我が国の食料生産は、国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていること」を実感させる目的で、「地元産品を活用したメニューを考案する活動」に関連付けた。 【社会科】「多角的に思考・判断・考察する力」を、「調理を通して環境、食糧の安定供給を実現する地産地消について考えていく活動」に関連付けた。 【3年生社会科・3年生総合的な学習の時間】 「わたしたちの市のようす」で学んだ地元の産品や、の「魅力発見！廿日市」で取り組んだ「廿日市の史跡や名産品を発見する活動」を、「史跡や歴史にちなんで料理を考案する活動」に関連付けた。

- 〈弁当に入れる料理を決定し、分担を決定する〉…9月下旬
- ・グループの料理を決め、料理名、材料、作成順等を決定した。
 - ・食育授業で学んだ、主食・主菜・副菜等のバランスを考慮に入れる。

- 〈弁当に入れる料理のレシピを作る〉…10月～1月
- ・栄養バランス、彩り、価格等の視点から、料理を考え、修正を加えながらレシピを作っていた。
 - クラスのアレルギーのある児童に対応したメニュー作りの工夫を行った。
 - ←調理体験を家庭でさせていただけるよう、保護者に協力を求めた。

- 〈弁当販売について学ぶ〉…10月
- ・弁当販売を委託する、株式会社A & Cの木本さんをゲストティーチャーとして招聘し、原価計算と販売利益を考えた価格設定と販売のためのマーケティングについて学習した。



9月6日

食育授業

…栄養のバランスのとれた食事をしよう



10月23日

弁当販売への勉強会



10月31日

バケツ稲作り

…稲刈り体験

- 〈弁当レシピ検討…栄養教諭による指導〉…11月7日
- ・栄養教諭により、児童の料理案へのアドバイスをいただいた。



11月7日

弁当レシピ検討

…栄養教諭による指導

- 〈エコのみ焼きを作る〉…11月8日
- ・廿笑応援団の方々に教えていただき、地産地消と、環境に優しい調理の方法を学び、持続可能な社会の実現に向けて考えを深めた。
 - フードマイレージ計算を通し、地産地消の意義を考えた。



11月8日

弁当レシピ検討

…栄養教諭による指導



11月29日

バケツ稲作り

…脱穀・精米体験

- 〈弁当販売について学ぶ〉…11月29日
- ・弁当販売を委託する、株式会社A & Cの木本さんから、予約販売のためのチラシ作りのアイデアを出し合う活動を行った。



11月29日

弁当販売への勉強会

…販売への準備物について



12月12日

バケツ稲作り

…試食

【学級活動】「食生活を見直そう」
【家庭科】「おいしい楽しい調理の力」で学んだ「安全と衛生に気をつけて調理をする力」を「オリジナル弁当の調理計画作成活動」に活用した。

【PTCA】「ハロー！ケーキの原価計算」で、公認会計士から教えていただいた原価と販売価格の学習を生かして考えていくように指導する。

【社会科】「わたしたちの食生活と食料生産」、3・4年生の「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」と関連付け、販売の仕事については商品の品質管理、値段の付け方、宣伝の仕方などに見られる仕事の工夫を学んだ。生産の過程で様々な費用がかかること、輸送に費用がかかることなどを取り上げ、消費者の需要にこたえる生産や運輸の工夫に気付く学習を踏まえ、弁当の価格の設定について考える活動に結び付けていった。

【家庭科】「食べて元気！ご飯とみそ汁」で学習した、「毎日の食事を振り返り、バランスのとれたよりよい食生活を考える学習」を、「栄養バランスを考えた弁当の材料を考える学習」に関連付けた。

【社会科】「環境を守るわたしたち」の環境汚染から健康や生活環境を守るためのわたしたち一人ひとりの努力や協力の大切さを考えようとする」という目標に関連付け、環境に良い調理の方法も学び、環境保全を考えた活動に高めていった。

【社会科】3・4年生の「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」と関連付け、販売の仕事については商品の品質管理、売り場での並べ方や値段の付け方、宣伝の仕方などに見られる仕事の工夫について考える活動に結び付けていった。

〈JA 産直市の方による指導〉…12月18日

- ・JA 産直市職員に食材を注文する体験を通して、地元産の農産物、旬の食材などへの理解と関心を高めることができた。



オリジナル弁当
食材注文会

〈パンフレット、包装紙を作成する〉…10月～1月

- ・弁当の工夫やアピールポイントをまとめたパンフレットを作成した。
- ・弁当の包装デザインを考え、作成した。



パンフレット



包装紙

〈弁当の発表会の計画を立てる〉…1月～2月

- ・感謝を伝える会の目標を確認し、目標や招待する方々、会の流れを考えた。
- ・分担に沿って準備、練習を行った。

〈弁当の作成を行う〉…2月14日、19日、21日

- ・甘笑応援団の方々の支援を受け、弁当づくりを行った。

〈弁当の発表会・感謝祭を行う〉

- ・甘笑応援団等、お世話になった方々を招いて弁当発表会・感謝祭を行った。



弁当作成



児童の作った弁当



感謝祭

【家庭科】「めざそう買い物名人」での「身近な物や金銭の計画的な使い方、目的に合った物の選び方や買い方について考える学習」に、本活動の「産直市への食材を注文する活動」に関連付け、生鮮食品の旬や価格の変動についても学びを深めていった。

【国語科】「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」で身に付けた「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする力」を「弁当の主旨を的確に伝えることのできるパンフレットを作る活動」に活用した。

【図画工作科】「心のもよう」で身に付けた「自分の思い描いたイメージが表れるような形や色を考えて表現する力」を、「弁当の主旨を的確に伝えることのできるパンフレットを作る活動」に活用した。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、フリップを使って筋道を立て、相手が分かりやすい説明を考えていくよう指導した。

【家庭科】「食べて元気！ご飯とみそ汁」で身に付けた調理の技能を、弁当製作に生かす。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、企業の担当者に販売の依頼を行うプレゼンに生かす。

【国語科】身に付けるべき、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力」を活用し、弁当の販売PRに生かす。

〈弁当販売のPRを、ラジオで行う〉…3月上旬

- ・FMはつかいちで、児童の代表者が弁当予約販売のPRを行う。
- ☆新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休校により、中止。

〈弁当販売作戦を行う〉…3月20日

- ・『はつかの市』において、弁当を販売する。
 - 作ったパンフレットやポスターを掲示し、当番制で販売を行う。
 - 販売体験を通し、これまで関わっていただいた方々や買ってくださる方々への感謝の気持ちをもつことをめざす。
- ☆新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休校により、地域への販売を取りやめ、校内関係者のみを対象とした電話予約による株式会社A&Cでの販売、教員による学校での弁当販売に変更。



販売バージョン弁当



学校での販売

〈1年間の活動の振り返りを行う〉…3月

- ・活動を振り返り、成長できたことを文章にまとめ、交流する。
- ☆新型コロナウイルス感染症予防のための臨時休校により、中止。

〈児童生徒の感想・振り返り〉

- ・農家の方々が苦勞してお米を作っておられることを知った。お米を残さず大切に食べていきたい。
- ・お米から作られた単位やことわざがたくさんあって驚いた。日本の文化は、お米作りやお米がもたになっていると分かった。お米を食べなくなってきたと社会科で学んだが、お米を食べる文化を守らないと、日本らしさがなくなってしまう。お米を食べることで支えていきたい。
- ・自分の考えた料理をみんなで考えることができて、うれしかった。家で作って食べてみると、おいしかった。
- ・バケツ稲作りは大変だったけど、お米がとれてうれしかった。農家の方々も苦勞して作っておられることに気付いた。
- ・バケツ稲作りでとれたお米を、お弁当の料理に使って、みんなに味わってもらいたい。
- ・昔の人々も、世界の他の国々も、今の自分たちと同じようにお米をおいしく食べたいと思っていたことが分かった。お米を美味しく料理しようと工夫してきた人々がいて、今自分たちがおいしい料理を食べることができるとに気付いた。
- ・桶寿司など、廿日市の名物料理を知り、地産地消を考えて作ることができた。みんなに広めたい。
- ・廿日市の食材は、たくさんあることが分かった。それを使っていろいろな料理ができることが分かった。家でも作ってみたい。
- ・友達と一緒に協力して弁当を考え、作るのが楽しかった。失敗しても助けてくれたのが嬉しかった。
- ・一つのお弁当を作るのに、大変な努力がいることが分かった。食べ残しをせず、感謝して食べていきたい。
- ・感謝祭を計画する中で、改めてたくさんの方々にお世話になったことに気付いた。
- ・店で売られるまでに多くの人が働いておられ、品物が工夫や努力で作られていることが分かった。
- ・自分たちの考えたお弁当が、プロの方に作ってもらえて完成していて、うれしかった。
- ・自分たちのお弁当のよさをしっかりみんなに伝えて売り切りたい。廿日市の名物にしたい。

〈効果のあった「授業展開」または「指導の工夫」等について〉	➡ 〈児童生徒の変容〉
・ 3年生の総合的な学習の時間の学習を想起させ、廿日市地区の史跡や名物を料理のテーマにする点を徹底した。	・ 廿日市校区の良さを再確認し、料理という形に表現することで、郷土に対する愛着が深まった。
・ 感謝祭を最終的な活動のまとめに設定し、活動が多くの人々の支援で行われてきていることに常に立ち返らせながら活動を進めた。	・ 廿笑応援団の方々やJ A佐伯中央の方々への感謝の言葉が、自然と出るようになった。
・ バケツ稲作りの、稲への水やりや害虫駆除、脱穀や稲刈りの作業を体験させ、自らの食生活について振り返る活動、米についての調べ学習を行い、普段の自分の生活や意識について振り返り、考えを深めていくことができるよう留意した。	・ 自分の食生活を振り返り、「感謝して食べる」、「残さないよう食べる」など、食材を作る人、調理をする人の気持ちを考える児童が増えた。また、日本文化に米が深くかかわっていることに気付き、米食を守っていくことの必要性について考えを深めることができた。国語の「和の文化」の調べ学習でもこの気付きを生かしていくことができていた。
・ 地元で生産されている食料品について、社会科の学習と関連付けて考えさせ、電子黒板で画像を提示しながら生産者の思いも伝えていくよう留意した。	・ 地産地消への意識の高まりなど、活動を通して得たことを、児童が日常生活に生かしている。
・ 児童自らのレシピ作りに時間を割き、保護者に、懇談会や通信を通して家庭での調理体験を増やしていくことができるようお願いして自らの体験で改善を行っていくことを徹底した。	・ オリジナル弁当を、自分たちで考え、自分たちが作り上げる過程で、調理の技術の向上が見られ、満足感、達成感を得ることができた。
・ 課題を高いレベルに設定し、児童同士の対話的活動を中心に活動を進めていく中で、話し合いの進め方、出された意見への評価を通して方向性を示す指導を徹底した。	・ 弁当作り、弁当発表（感謝祭）の企画・進行をクラスで協力して行う中で、相互理解が進み、友達との連帯感と自己有用感が高まった。
・ 販売に向けた企業との連携が実現し、販売に向けての課題発見解決学習を児童主体で行っていくことができるよう留意した。	・ 販売に向けての主体的な取組を通して、自分たちの思うとおりに進まない体験、柔軟な思考によって課題を解決していく経験、労力と売値の関係など、様々なことに気付くことができた。また、付箋を使ったブレインストーミングなど、思考の深化につながる方法を学ぶことができた。
〈今後に向けた「改善点」〉	
・ 活動の中で、目的に合わないものを修正したり外したりしていくことが必要。来年度は、地産地消の学習を社会科で行った後、エコのみ焼き作り体験をやめて6学年で行っていた桶寿司作り体験を行うこととする。 ・ 販売については、仲介する機関・団体と企業への依頼や説明に多大な労力を要し、年度またぎによる販売実現では、児童の関心の低下も考えられる。次年度のコンクールへの応募など、年度をまたぐことをはじめから想定した計画の立案等、今後課題を残した。 ・ メディアへの情報の公開については、複数の学級でそれぞれ取り上げていただくよう折衝が必要。 ・ 販売体験は、児童の主体的な課題解決が必要となる。活動のねらいを児童にしっかり把握させておくこと、進度の調整等、教員が企業や関係機関との連携の上で見通しをもって活動を計画することが必要。 ・ 今回は初めての試みということで、株式会社A & Cの方に進めていただくことが多かった。児童のさらなる主体的な活動をめざし、チラシや販売チケット製作等、取り組みの幅を広げたり、地域・外部との連携を図ったりしていきたい。 ・ 新型コロナウイルス感染症予防の臨時休校のため、3月に予定していた活動ができなかった。ラジオ出演、販売に意欲的に取り組んでいた児童に申し訳ない気持ちでいっぱいである。来年度は、販売を児童が行えるようにしたい。	